日本中国語学会々報　2023年6月

https://ss1.xrea.com/www.chilin.jp/

◆目次◆

ご挨拶 1
支部例会実施報告　2023.1-2023.5 2
会議報告 4
全国大会および例会、「中国語学セミナー」開催のお知らせ 8
選挙公示 9
事務局からのお願いとお知らせ 10

ご挨拶

竹越孝（日本中国語学会会長）

3 年半に及んだ長いトンネルを抜けて、どうやら私たちは本格的にコロナ後の世界に踏み出しているようです。今年度の第 73 回全国大会は 4 年ぶりに対面形式で行われることが決まりました。一方、この間私たちはオンラインの良い面も充分に認識したところですから、必然的に今後の学会運営には双方の利点を生かした取り組みが求められます。現在、橋本永貢子委員長を中心とする大会運営委員会では、この困難なミッションに向けて様々な検討をして下さっており、会員を代表して深甚の感謝を申し上げたいと思います。今秋、全国大会の場で皆様とお会いできることを楽しみにしています。

また、10 月に刊行される予定の『中国語学』第 270 号では、昨秋刊行された『中国語学辞典』（岩波書店）に対する特集が組まれ、比較的若い世代の執筆者による書評がメインになると伺っています。こちらも期待して待ちたいと思います。

さて、3 年前の今頃、全国でオンライン授業が始まり、私自身もその運営に四苦八苦していたことが思い出されますが、現在、多くの授業が対面に復するのと時を同じくして、今度は生成系 AI の問題が急激にクローズアップされてきました。果たしてこれは中国語学研究と中国語教育にとって危機なのか好機なのか、という問いは意味がなく、オンライン授業と同様、好むと好まざるとに関わらず、そこにあるものとして受け入れなければならない存在のようです。奇しくも、今年度の全国大会の講演は生成系 AI が共通テーマになるとのことで、私もこの機会に認識を深めたいと思っている一人です。

誰もが手軽に知識を得られ、それを論理的な形で表現できるという AI の発展が我々に突きつけるものは、専門知に対するより一層の信頼を構築することではないか。少し形は違いますが、そう考えさせられた出来事がありました。「ついに土偶の正体を解明しました」というセンセーショナルな書き出しから始まる『土偶を読む』（竹倉史人著、晶文社、2021

年）が、出版直後から各界の著名人に激賞され、ついには同年のサントリー学芸賞を受賞するに至りましたが、最近、それに対する徹底した批判的検証である『土偶を読むを読む』（望月昭秀編、文学通信、2023 年）が刊行されました。後者の記すところによれば、『土偶を読む』が得た高評価の背景には専門知に対する疑念があり、出版後の狂騒の中で「知の鑑定人」たる専門家が不在だったことに危機感を抱いたと言います。これは単なる批判一辺倒の書ではなく、日本における縄文研究の最前線を提示する良質な学術書でもあります。

上は、ある意味学界の健全さを物語る事例と言えますが、我々とも決して無関係ではないように思います。専門知と一般社会をいかにつないでいくか、どのように両者の分断を防ぎ、知の鑑定人としての役割を果たすか。これは、誰もが当たり前に AI を使う時代を迎えて、学を志す私たちが向き合わなければならない重要な課題の一つだと感じています。

［2023 年 6 月 18 日記］

支部例会実施報告　2023.1-2023.5

◆北海道支部例会

◇第 1 回 : 2023 年 3 月 11 日（土）午後 2 時～
オンライン（Zoom）による開催

・楊安娜（北海学園大学）：有關上古漢語“主之謂”結構形式句法角度研究的局限性

最近從形式句法的角度來研究上古漢語“主之謂”結構的研究主要有：鄧盾（2015）、田源・徐傑（2016）提出的“定式句（finite clause）”說，楊萌萌（2019）提出的“非定式句（nonfinite clause）”說，以及景黎黎・洪波（2019）提出的“小句名詞化（clausal nominalization）”說，本文嘗試指出這些結論各自存在的問題，並在此基礎上從“間接引用”的觀點來進行統一的解釋。

・山田敦士（日本医療大学）：道内高等教育機関における中国語教育の現状と課題

1991（平成 3）年に大学設置基準の大綱化が実施され、「外国語科目」に対する卒業要件が大きく緩和された。第 2 外国語を課さない教育課程の設定が許されたことで、英語以外の外国語の基盤は大きく揺らぐこととなった。他方で、大学数が 514 校（1991 年）から 807 校（2022 年）へと約 1.5 倍になるなど、高等教育の選択肢や機会自体は増加している。こうした 2 つの教育環境の変化にかんがみると、中国語を含む第 2 外国語の地位は相対的に大きく低下したと推定される。こうした傾向は北海道内においても例外ではない。本発表では、道内高等教育機関における中国語教育の現状を共有し、そこに内包される地域的な課題について提起したい。

・章天明（小樽商科大学）：范围副词“都”的习得偏误分析---从几个具体例句说起

“都”是汉语学习者在习得范围副词时偏误频率高、偏误类型多的一个词。本文以几个常见的“都”的习得偏误例句为考察对象，从“都”的语义特征；“都”量化对象的语义特征；“都”量化的是关系还是属性；主观大量和主观小量对“都”的选择；有定 NP 与有界 VP；“左向量化”与“右向量化”这六个方面，对“都”的普遍性偏误进行分析，解释各种不同习得偏误产生的原因，并提出相应的教学策略。

◆関東支部例会

◇第 2 回 : 2023 年 3 月 18 日（土）午後 1 時～
オンライン（Zoom）による開催

〇研究発表

・髙柳浩平（中央大学・院）：初唐の使動用法と使成式について

髙柳（2022）では、魏晋南北朝期に成立した複数の漢訳仏典から使動用法（V＋O）と使成式（V＋C＋O）の用例を調査した。その結果、「述語全体の後方に目的語を置く直接使役構文」の中心は依然として単音節動詞の使動用法にあって、同時期にこれに取って替わっていたとされてきた複合形式の使成式は、前者を淘汰するほどには用いられていなかったことを実証的に明らかにした。本発表では、これに引き続く記述的研究として、初唐に活躍した僧・義浄が漢訳した有部律典等から用例を調査することで、同時期における使動用法と使成式の様相を確かめ、特に使成式の成立時期について再検討する。

・高芃禹（東京大学・院）：瓦乡话舌冠擦音、塞擦音声母的历史

主要分布于湘西的“瓦乡话（乡话）”近年受到学界关注。瓦乡话给人的初步印象是缺乏多样性，而现有的瓦乡话音韵史研究也多未足够重视到其内部比较。本研究认为瓦乡话有一定的多样性，而如果探究瓦乡话音韵史时只举少数方言点为例的话，其他方言点中的信息将会被忽视——因此内部比较对于瓦乡话音韵史研究很有意义。现代大部分瓦乡话方言点中，齿龈（塞）擦音声母只能接洪音，而细音前的舌冠（齿龈、卷舌或龈腭音）（塞）擦音声母只能是龈腭音，并且缺少卷舌音音声母，因此音位学意义上只有一组舌冠（塞）擦音声母。本研究借助比较法来探究瓦乡话舌冠（塞）擦音声母的历史，认为在“原始瓦乡话”中存在齿龈、卷舌和龈腭音三组（塞）擦音声母的对立。

〇講演

・白静茹（樱美林大学 山西大学）：日本明治中期汉语教科书语音系统研究

本文以日本汉语教育家宫岛大八的《官话辑要》《官话篇》等几部汉语教科书为对象，考察明治中期汉语教科书语音系统的特点及相关问题。研究表明，上述教材的语音部分体现了宫岛大八对汉语语音系统性和音系结构性的认识，也反映了十九世纪末至二十世纪初北京官话与现代普通话的差异。教材记录的一些音节读音显示了北京官话的异读现象，特别是古入声字的文白异读，体现出当时北京官话入声舒化过程中的不稳定性。教材的某些音节如 kiai、lüan 在现代普通话中已经消失,但在某些北方方言里仍有保留，这也体现北京官话音系所经历的历史变化过程，对于了解汉语官话演变历史有积极作用。

◆北陸支部例会

◇第 1 回 : 2023 年 3 月 25 日（土）午後 1 時～
オンライン（Zoom）による開催

・茂野瑠美（北陸大学）：程度を表す〈有 N〉の考察―程度副詞の共起を中心に―

現代中国語における〈有 N〉は所有や存在だけでなく、発話者の主観的な評価や程度を表すことができる。前置する程度副詞と評価や程度を表す〈有 N〉は、“有”の後置成分である名詞の意味的特徴によって共起が制限されるが、程度副詞と共起が可能な場合において、“这个人有学问”“这个人很有学问”のように、程度副詞の有無が文全体の意味に与える

影響が極端に少ないものが見受けられる。本発表では、評価や程度を表す〈有 N〉と“很”を中心とした程度副詞が共起する場合の意味変化を明らかにし、〈有 N〉が評価や程度を表す表現として定着したメカニズムを考察する。

・干野真一（新潟大学）：現代中国語文化語彙についての一考察

本発表では“文化词”とよばれる中国語の文化語彙について考察する。“春节”や“太极拳”といった文化的特色のある語が該当するが、赵明 2016《现代汉语文化词研究》（中国社会科学出版社）は、文化語彙を言語的特徴から整理した点、また、重要度や使用頻度に基づきリスト化した点で画期的な意味を持つ。当該リストへの分析を通じ、発表者は特に「一音節動詞+二音節名詞」で構成される三音節の文化語彙に注目した。例えば“包饺子”“吃饺子”そして“饺子”では文化語彙としての含意がどう異なるのか。語彙考察から得られた示唆や留学生へのアンケート結果を分析し、さらに文化語彙と「中国語レベル等級基準」語彙との違いについても言及する。

・井上優（日本大学）：経験と想像―“多（么）”の日本語訳から見えてくること―

感嘆の“多（么）”は「なんと」「どんなに／どれだけ」と訳されるが、「なんと」と「どんなに／どれだけ」は意味が異なる。“好”も「なんと」と訳されるが、“好”と“多（么）”は意味が異なる。日本語の「なんと」は「属性のあり方が経験の枠に収まらない」こと、「どんなに／どれだけ」は「属性のあり方が想像の枠に収まらない」ことを表す。中国語の“好”は「通常経験しないような属性のあり方を感じた」こと、“多（么）”は「属性のあり方が経験・想像の枠に収まらないことを感じている」ことを表す。「なんと」「どんなに／どれだけ」の区別が“多（么）”で中和されるのは、日中両語の指示詞の体系の違いと通ずるところがある。

会議報告

■編集委員会

◆第 1 回編集委員会（『中国語学』270 号）

日時：2023 年 3 月 18 日（Zoom によるオンライン）

出席者：吉川雅之（委員長）、飯田真紀、伊藤さとみ、宮本徹、李佳樑、鋤田智彦、吉田泰謙、盧建（以上委員）

【議事】

1. 『中国語学』第 270 号の投稿論文について

・投稿総数は 17 篇。審査の結果 15 篇を受理した。分野別内訳は、現代語文法 10、歴史文法 1、音韻 1、方言 3 である。各篇について査読者各 3 名を決定した。査読報告書の提出期限を 5 月 6 日（土）とし、5 月 20 日（土）の第 2 回編集委員会において採否の決定を行うこととした。

2. 『中国語学』第 270 号の特集記事について

・本学会編『中国語学辞典』の書評 5 篇と説明 1 篇から成る特集記事を組むこととし、平田昌司会員、野田寛達会員、張玥会員、

濱田武志会員、三村一貴会員、市原靖久会員に寄稿を依頼した。

3. 2023 年度学会奨励賞の候補者について

・『中国語学』第 269 号に掲載された論文の執筆者の中から 3 名を選出し、5 月 20 日（土）の第 2 回編集委員会において候補者を決定することとした。

◆第 2 回編集委員会（『中国語学』270 号）

日時 : 2023 年 5 月 20 日（土）（Zoom によるオンライン）

出席者：吉川雅之（委員長）、飯田真紀、伊藤さとみ、宮本徹、李佳樑、鋤田智彦、吉田泰謙、盧建（以上委員）

【議事】

1. 『中国語学』第 270 号の投稿論文の採否について

・受理した投稿論文 15 篇について、査読結果に基づいて審議した結果、4 篇を要二次審査、11 篇を不採用とした。要二次審査の 4 篇については、6 月 30 日（金）必着で修正論文の提出を求め、編集委員会において二次審査を行った上で、掲載の可否を最終決定することとした。

2. 『中国語学』第 270 号の特集記事について

・特集記事に関する進捗状況を確認した。

3. 2023 年度学会奨励賞の候補者について

・第 1 回編集委員会で選出した 3 名の候補者について審議を行い、学会奨励賞候補者を決定し、理事会に報告することとした。

4. その他

・将来的に、論文投稿を電子メールではなくウェブフォームで受け付けることの可否について、調査を開始することとした。

■大会運営委員会

◆メール審議（2023 年 2 月 16 日～3 月 30 日）

委員：橋本永貢子（委員長）、石崎博志、伊藤大輔、浦山あゆみ、佐々木勲人、島村典子、張恒悦、張玥、戸内俊介、野原将揮、福田翔（以上委員）

【審議事項】

1. 研究発表応募書類等の確認

・第 73 回大会の研究発表およびワークショップの公募に先立ち、ウェブサイトに掲載する各種応募書類の修正・確認を行った。

2. 予稿集の冊子体とプログラムの郵送について

・2019 年度第 1 回理事会で、予稿集はいずれ電子版のみとすることが決定されていることから、冊子体の予稿集は発行しないことを確認した。またプログラムについてもウェブサイトで公開し、郵送は行わないこととした。

◆メール審議（2023 年 5 月 7 日～17 日）

委員：橋本永貢子（委員長）、石崎博志、伊藤大輔、浦山あゆみ、佐々木勲人、島村典子、張恒悦、張玥、戸内俊介、野原将揮、福田翔（以上委員）

【審議事項】

1. 第 74 回大会開催校について

・候補校について審議した。

2. 第 73 回大会における参加費及び懇親会について

・オンライン参加者及び対面参加者の参加費や徴収の方法、また懇親会開催の是非や形式等について意見交換を行った。

■学界展望編集委員会

1. 2022 年「学界展望 語学」の編集

・2023 年 3 月 1 日に学界展望編集委員会委員

に執筆依頼を送付し、5 月 15 日をめどに初稿を取りまとめることとなった。なお、文字数は例年通り 15,000 字である。

・今次の学界展望は、ともに 2023 年 10 月発行予定の『日本中国学会報』第七十五集に掲載され、『中国語学』第 270 号に転載される予定である。

2. 2021 年「学界展望 語学」の中国語版

・今年度は 2021 年の「学界展望 語学」中国語版が作成されるはずであるが、2023 年 5 月 23 日現在、中国語訳を担当する中国社会科学院文学研究所からの連絡はない。

■2023 年度第 1 回理事会

日時：2023 年 5 月 21 日（日）14 時～16 時

（※Zoom によるオンライン開催）

出席者：竹越孝（会長）；丸尾誠（副会長）；秋谷裕幸、遠藤雅裕、佐々木勲人、古川裕、三宅登之、吉川雅之（以上理事）；吉川雅之（編集委員長[兼任]）；橋本永貢子（大会運営委員長）；鈴木慎吾（ウェブリソース委員長）；秋谷裕幸（学界展望編集委員長[兼任]）；大西博子、西村英希、濱田武志（以上幹事）

【報告事項】

1. 一般報告

1.1 役員・委員等の異動

・評議員交代

関東支部：保坂律子（駒沢女子大学）
→ 宮島和也（成蹊大学）
戸内俊介（二松学舎大学）
→ 神谷智幸（駒澤大学）
中国支部：犬塚優司（島根県立大学）
→ 李郁蕙（広島大学）

1.2 会員動向（2023 年 4 月 1 日現在）

・会員数　4 月 1 日現在　（増減は 2022 年 10 月 1 日を基準とする）

		4/1 現在	増減
総会員数（賛助会員をのぞく）		886 名	－8
（内訳）	顧問	8 名	＋2
	名誉会員	11 名	－2
	通常会員	806 名	－10
	団体会員	4 名	±0
	海外会員	57 名	＋2
賛助会員		19 社	±0

〔昨年度除籍者〕　57 名（国内会員　49 名 / 海外会員　8 名）

ご逝去　2 名（桜井 明治名誉会員、小林 立名誉会員）

2. 支部例会関連

・支部例会世話人交代

関東支部：　張盛開（静岡大学）
→ 野田寛達（明治大学）

・今年度の例会開催予定

北海道　（山田　敦士会員）：1 回
関　東　（野田　寛達会員）：2 回
北　陸　（加納　希美会員）：1 回
東　海　（張　　勤会員）：未定
関西・四国（田中　智子会員）：2 回
中　国　（荒見　泰史会員）：1 回
九　州　（木村　裕章会員）：2 回

3. 大会運営委員会報告

橋本委員長より次の報告があった。

（1）委員の就任について

・就任：伊藤大輔会員（2022 年 12 月 10 日付。2023 年開催校代表）

（2）第 72 回大会で見られた問題について

・問題点を精査し、対応策を検討・確認した

（11 月 6 日～19 日）。

（3）第 73 回大会の準備状況について

1）日程・開催校・代表

2023 年 11 月 4･5 日（土･日）、目白大学、伊藤大輔会員

※ 託児所を学内に設置

2）招待講演

山崎直樹会員（関西大学）、水本篤（非会員）（関西大学）

3）各種応募規定

・「ヒトを対象とした実験研究実施にあたっての倫理規定」を新たに追加した。

・発表辞退、予稿集原稿提出遅延等に対し厳格に対処する旨、文言を修正した。

・ワークショップについては、第 73 回大会が対面開催される場合、 1 部会のうち一部の発表者がオンラインで発表することを可とした。

4）各種応募期間

ワークショップ : 5 月 17 日（水）～5 月 31 日（水）

研究発表 : 6 月 16 日（金）～6 月 30 日（金）

5）予稿集原稿提出期間

9 月下旬を予定。

6）予稿集およびプログラムの電子化

いずれもウェブサイト上で公開し、冊子体の発行及び郵送は行わないこととした。

7）懇親会

開催の是非、形式について意見交換を行った。

8）参加費

オンライン参加者の参加費、および金額（対面参加者も含め）について意見交換を行った。

（4）第 74 回大会開催校について

候補校について審議した。

4. 編集委員会報告

吉川委員長より次の報告があった。

（1）『中国語学』第 270 号の投稿論文の採否について

・受理した 15 篇の投稿論文を査読結果に基づいて採否の判定を行い、4 篇を要二次審査、11 篇を不採用とした。

（2）『中国語学』第 270 号の特集について

・本学会編『中国語学辞典』の書評 5 篇と説明 1 篇から成る特集記事を組むこととし、平田昌司会員、野田寛達会員、張玥会員、濱田武志会員、三村一貴会員、市原靖久会員に寄稿を依頼した。

（3）2023 年度学会奨励賞の候補者について

・第 2 回編集委員会において候補者を決定した。

5. 学界展望編集委員会報告

秋谷委員長より次の報告があった。

（1）2022 年「学界展望　語学」の編集

・学界展望編集委員会委員に執筆を依頼した。

（2）2021 年「学界展望　語学」中国語版

・2021 年「学界展望　語学」の中国語版は 5 月 23 日時点で未刊行である。

6. 中国語学セミナーについて

・竹越会長より中国語学セミナーの準備状況について報告が行われた。

7. 除籍候補者と住所不明者について

・竹越会長より、除籍候補者と住所不明者の今年度の状況について報告が行われた。併せて、住所不明者に関する情報提供が呼びかけられた。

【審議事項】

1. 次期全国大会開催校について

・橋本委員長より次期開催校について以下のとおり提案があり、承認された。

［学校名］関西外国語大学
［代表］吉田泰謙会員
［開催形態］対面
［日程］調整中

2. 今年度の大会について

・橋本委員長より、今年度の大会における懇親会の形式ならびに参加費について提案があった。懇親会は酒類を伴わない交流会の形式とし、参加費は例年通り 3,000 円とする旨、承認された。

3. 学会奨励賞の授賞について

・学会奨励賞の授賞者を編集委員会の原案通り承認した。

4. 選挙管理委員について

・竹越会長より選挙管理委員の人員について以下のとおり提案があり、承認された。
［委員長］更科慎一会員
［委員］氷野善寛会員（開催校）、濱田武志会員（事務局）

5. 今年度の理事選挙について

・竹越会長より、会長及び理事選出方法に関する内規（→第 10 条関連）に基づき、オンライン形式で理事選挙を実施すること、ならびに理事選挙の運営を選挙管理委員会に委嘱することについて提案があり、承認された。

6.会員名簿について

・竹越会長より、今後紙媒体の会員名簿を廃止してウェブ上の検索機能をもって名簿の発行に替える旨が提案され、承認された。システムの具体的な形態については継続して検討することとした。

7. 顧問・名誉会員の推挙について

・木村英樹会員と古屋昭弘会員を顧問に推挙することが承認された。また、ニューズレターに名誉会員の推挙依頼を掲載することとした。

8. その他

・任期途中において理事が交代する場合の条件について意見交換した。

全国大会および例会、「中国語学セミナー」開催のお知らせ

第 73 回全国大会開催のお知らせ

すでに学会ウェブサイトでご案内しておりますとおり、今年度の大会は目白大学にて 11 月 4 日（土）～11 月 5 日（日）の日程で開催されます。ふるってご参加下さいますようお願い申し上げます。本年度の研究発表申し込み期間は、6 月 16 日（金）より 6 月 30 日（金）日本時間 23 時 59 分までです。採択者一覧、大会プログラムは 7 月末以降に学会ウェブサイト上に順次アップする予定です。なお、予稿集は第 70 回より電子版のみの刊行となっております。詳細は学会ウェブサイト等をご参照ください。

（事務局）

今年度の例会実施予定

各支部の例会実施予定は次のようになっています。

北海道支部：1 回（9 月）
関東支部：2 回（8 月、2024 年 2 月）
北陸支部：1 回（2024 年 3 月）
東海支部：未定
関西・四国支部：2 回（6 月、12 月）
中国支部：1 回（6 月）
九州支部：2 回（6 月、12 月）

発表者、参会者ともに歓迎します。ただし、開催時期および回数は変更になることもありますのでご了承ください。開催予定、申込締め切り、連絡方法などにつきましては学会ウェブサイトでご確認ください。発表者の方には発表要旨（300 字以内）の事前提出をお願いしています。この要旨は本会ウェブサイト上の例会案内のページで紹介しています。また支部例会の活動記録として、学会ウェブサイト上でいつでも参照できるように保存されます。開催に関する詳細については、各支部例会世話人までお問い合わせ下さい。

（事務局）

第 5 回「中国語学セミナー」開催

第 5 回「中国語学セミナー」を開催いたします。開催日は 2023 年 9 月 9 日（土）、講師は小野秀樹会員（東京大学）、山崎直樹会員（関西大学）を予定しています。開催形態は Zoom によるオンラインです。講義題目、受講申込み方法等については、詳細が決まり次第、学会ウェブサイト等でお知らせします（7 月中旬に掲示する予定です）。

（事務局）

選挙公示

2023 年 10 月 28 日（土）～11 月 3 日（金）に日本中国語学会「会長及び理事選出方法に関する内規（→第 10 条関連）」に基づき理事の選挙を行います。選挙はオンライン投票の形で行います。投票の具体的な方法については、10 月上旬頃、本学会に登録されたメールアドレス宛にお知らせします。メールアドレスの変更をご希望の方は、9 月末日までに e-naf で手続きを行ってください。投票締切後、選挙管理委員会が速やかに開票結果を確認し、当選者の情報を総会およびウェブサイト等でお知らせいたします。

選挙管理委員会委員
更科慎一（委員長）、氷野善寛（開催校）、濱田武志（事務局）

（事務局）

事務局からのお願いとお知らせ

■ 名誉会員の推挙について

名誉会員の推挙は、9 月 30 日までに推薦文を添えて事務局宛にメール送付でお願いします。なお、名誉会員称号授与の条件は、年齢満 70 歳以上で継続して 20 年以上本会会員であった方のうち、本会の発展に功労のあった方となっており、理事会、評議会の審議を経た上で会員総会において決定されます。

■ 住所不明の会員

事務局より送付した郵便物が返送されてきた会員のお名前を掲げておきます。もし御自身のお名前を見つけましたら、速やかに e-naf から住所変更の手続きを行なってください。またお知り合いの方のお名前がありましたら、事務局までご連絡をお願いします。

荒屋勸、泉興長、郭雲輝、金子真生、張桂珠、張立波、鄭亨奎、原由起子、苞山武義、余維、楊立明、井川壽子、小松紘一郎、孫樹林、陳瑩、李鵬、鄭琼花、張翼翔、楊纓、鄧宇陽、王天予、杜天邑、董微雨、趙暁熠、王仁靖、呂佳駿、鄭欣悦、曾曾、尚明輝、胡嘉怡、呉琪、大久保蛍、蔡子文

■ 2023 年度会費納入のお願い

本年度会費（一般会員6,000円）を8月31日まで（研究発表応募者は6月30日まで）にお振込みください。

クレジットカードでのお支払いは、e-nafにログインのうえお手続きください。郵便振替でお支払いの場合は下記の口座にお振込み下さい。

加入者名：日本中国語学会
口座番号：00980-6-282216

『中国語学』バックナンバーなどに記載されている旧口座には振り込まないようお願いします。なお、これまでの会費が未納の方は請求のご案内に記載していますので、一括してご入金下さい。2年を超えて会費の納入がない場合は、当該会員に連絡の上、除籍となります。記載請求金額が12,000円を超えている場合、今年度中にご入金いただく必要がありますのでご注意下さい。

■ 会員情報更新のお願い

御所属や身分の変更がありましたら、会員データ管理システム e-naf にアクセスして、確認と更新をお願いいたします。職名については、該当する職名を選択してください。国内会員の場合、教授／准教授／助教／非常勤／院生／研修員の中から選択してください。また名誉教授／専任講師／（客員）教授は、そのまま記載してください。大学院研究生／科目等履修生などは「院生」に、(R)PD／（学振）研究員などは「研修員」に含みます。それ以外の場合は、上掲の選択肢の中から一番近いカテゴリーを選択してください。

海外会員の場合、教授／副教授／助教／講師／博士生／進修生の中から選択してください。また「助理教授」は「教授」と混乱する恐れがあるため、「助教」と略記してください。「碩士生／博士生」は区別せず「博士生」と表記してください。

具体的な凡例については、e-naf の会員登録情報のページを御覧ください。なおこの凡例

は事務処理を目的としたものですので、今後も実情に応じて改訂することがあります。

■ 退会について

退会は会費納付が前提となっています。退会ご希望の方は必ず会費納付後の年度内にお申し出下さい。

■ 予稿集の販売

過去の大会予稿集は、第69回以前のものは好文出版にて1,500円でお求めになれます。第70回以降の大会予稿集は電子版のみの発行（非売品）です。詳しくは学会ウェブサイトをご覧下さい。在庫につきましては好文出版（order@kohbun.co.jp）に直接お問い合わせ下さい。

■ 事務局の連絡先（2024 年 3 月まで）

事務局への郵便物の送付先は以下の通りです：

〒651-2187　神戸市西区学園東町 9-1

神戸市外国語大学中国学科内

日本中国語学会事務局宛

また各種のお問い合わせは、学会ウェブサイト（https://ss1.xrea.com/www.chilin.jp/）内の「お問い合わせ」ページをご利用ください。

訃　報

本学会名誉会員である桜井明治先生（千葉経済大学名誉教授）におかれましては、2022 年 1 月 6 日に満 85 歳の生涯を閉じられました。ここに謹んでお知らせいたします。先生の多大な功績を讃えるとともに、永年にわたって本学会ならびに中国語研究と中国語教育の発展に寄与されたご尽力に感謝し、心からご冥福をお祈り申し上げます。

2023 年 6 月
日本中国語学会会長　竹越孝

日本中国語学会々報 2023 年春季
（年二回発行）
発行者：日本中国語学会事務局
〒651-2187　神戸市西区学園東町 9-1
　神戸市外国語大学中国学科内
E-mail:jimukyok_clsj@chilin.jp
URL:https://ss1.xrea.com/www.chilin.jp/
発行日：2023 年 6 月 23 日